文教厚生常任委員会会議録

[平成24年 3月19日開催]

南あわじ市議会

文教厚生常任委員会会議録

日 時 平成24年 3月19日
午前10時00分 開会
午後 1時55分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（6名）

委 員 長	川 上 命
副 委 員 長	久 米 啓 右
委 員	森 上 祐 治
委 員	小 島 一
委 員	蓮 池 洋 美
委 員	登 里 伸 一
議 長	楠 和 廣

欠席委員（なし）

事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
次 長	阿 閉 裕 美
課 長	垣 光 弘
書 記	川 添 卓 也

説明のために出席した者の職・氏名

市 長	中 田 勝 久
副 市 長	川 野 四 朗
教 育 長	岡 田 昌 史
市 民 生 活 部 長	入 谷 修 司
健 康 福 祉 部 長	郷 直 也
教 育 部 長	岸 上 敏 之
市 民 生 活 部 次 長	原 口 幸 夫

健康福祉部次長	藤	本	政	春
教育部次長	太	田	孝	次
市民生活部市民課長	塔	下	佳	里
市民生活部税務課長	藤	岡	崇	文
市民生活部収税課長	垣	本	義	博
市民生活部生活環境課長	高	木	勝	啓
健康福祉部福祉課長	鍵	山	淳	子
健康福祉部長寿福祉課長	小	坂	利	夫
健康福祉部保険課長	川	本	眞	須美
健康福祉部健康課長	小	西	正	文
健康福祉部少子対策課長	福	原	敬	二
教育委員会教育総務課長	片	山	勝	義
教育委員会学校教育課長	安	田	保	富
	(学校教育指導主事)			
教育委員会人権教育課長	大	谷	武	司
教育委員会生涯学習	山	見	嘉	啓
文化振興課長	高	辻	隆	雄
青少年育成センター所長	細	川	協	大
清掃センター兼				
衛生センター所長				

参考人

紹介議員	蛭	子	智	彦
参考人	坂	本	保	直

II. 会議に付した事件

1. 付託案件	5
① 議案第27号 南あわじ市税条例の一部を改正する条例制について	20
② 議案第28号 南あわじ市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例制定について	28
③ 議案第29号 南あわじ市墓地、埋葬等に関する条例制定について	30
④ 議案第30号 南あわじ市保育所設置条例の一部を改正する条例制定について	33
⑤ 議案第31号 南あわじ市介護保険条例の一部を改正する条例制定について	37
⑥ 議案第32号 南あわじ市地域密着型サービス運営委員会条例の一部を改正する条例制定について	38
⑦ 議案第33号 南あわじ市福祉医療費助成条例の一部を改正する条例制定について	39
⑧ 議案第34号 南あわじ市公民館条例の一部を改正する条例制定について	42
⑨ 議案第35号 南あわじ市図書館条例の一部を改正する条例制定について	42
⑩ 議案第3号 平成23年度南あわじ市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	46
⑪ 議案第4号 平成23年度南あわじ市老人保健特別会計補正予算（第1号）	49
⑫ 議案第5号 平成23年度南あわじ市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	51
⑬ 議案第40号 洲本市・南あわじ市衛生事務組合規約の変更について	51
⑭ 請願第1号 年金の引き下げを行わないことを求める請願	5
2. 閉会中の所管事務調査の申し出について	55
3. その他	55

III. 会議録

文教厚生常任委員会

平成24年 3月19日(月)

(開会 午前10時00分)

(閉会 午後 1時55分)

○川上 命委員長 おはようございます。

ただいまから文教厚生常任委員会を開催いたします。

非常に議員の皆さん、また執行部の皆さんにおかれましては、先週、予算特別委員会4日間どうも御苦労さんでございます。きょうは、文教厚生常任委員会に、案件が14件あります。非常に多いわけでございますので、議員並びに執行部の皆さん方の御協力のほどをよろしくお願いを申し上げます。

なお、質問また答弁等におきましても、端的に一つお答えをお願いしたいとかように思っております。蓮池議員が少しおくれるということでございます。

それでは、ただいまから文教厚生常任委員会を開催いたします。

まず、執行部のほうで、市長。

○市長(中田勝久) 皆さん、おはようございます。

春一番も過ぎたところでございます。これから日に日に春が深まってくるものと思います。今も、委員長さんからお話ありましたとおり、先日は予算特別委員会、大変皆さん方にはお世話になり、御苦労さんございました。おかげで、すべてを御審議また適切妥当な可決いただきまして、厚く御礼申し上げます。

きょうは、文教厚生常任委員会、大変多くの案件がございます。どうぞこの件につきましても適切妥当な御決定をお願いいたしたいと思っております。

ところで、ごく簡単に一件、御報告を申し上げます。実はもう既に、いろいろマスコミまた機会あるごとに出ております関西広域連合のことで、県の政策調整局長が、この中身について、ごくポイントでございますが、つい先日報告に来られました。私どももなかなか言葉では聞いてるんですが、果たしてこの関西広域連合、中身については、ほとんど無責任な話ですが、勉強もしておりませんし、ごくポイントしか把握できておりませんでした。そういう声も結構ありまして、市長会の中でもそういう声がありました。何か県が独断で先行してるのと違うかというような、知事に対してもお話があったところでございます。県のほうからそういうことで来たわけでございます。

局長の話を聞いてみると、今それぞれの省庁が国土交通省、特に、いろいろと予算の関係なり地域性の事業も非常に大きいというようなことから、それを一つの今、関西広域連合の中で地方にいろいろと財源と権限をとということでかなり積極的に、進めているようでございます。今その整備局、すなわちここですと近畿地方整備局で、すべての国交省の出先として各県といろいろ取り決めなり、また事業予算等々しているわけでございます。こ

れを丸ごと、その関西広域連合に持ってきて、その中で各今加盟している、これも御案内のとおり、加盟している府県も、奈良がまだ入っていないし、また逆に鳥取と徳島、これがこの構成府県の事務等々の取り扱いの中に加入されております。そういうことから考えますと果たして、いろいろあったときに、うまくいくのかなという私も実は、危惧をいたしておりました。ところが今、申し上げたとおり、国交省の関係の分をまずは、国から財源、権限委譲を受けるということで強く申し入れているようでございます。

また、おいおい中身についてわかってきたら、また、おつなぎできる分はしていきたいし、また皆さん方も、いろいろなところで議会関係のほうからもそういう情報が流れてくると思います。私そのときにも、局長に言うたんです。逆に中途半端、二重構造になるんちゃうかなと、そういう声もあります。しかし、そうではありませんという話でございました。兵庫県の井戸知事がこの代表者になっておりますので、私は、特に反対ということではないんですが、逆にもっとその整備局をなくすなら、県にその分を各府県に財源と、権限をその分与えてくれるほうが、私たち末端の自治体としては、やはり県との深いつながりがあるので、そのことによって、事業展開がスムーズにいくし、また住民とのガバナンスもちゃんといけるといいますというふうに、言いました。そうしたら、局長いわく、そういう話も当初はしていたらしいです。しかし、なかなかそれでは国は受け入れない、ということからそういう今説明をしている広域連合に、まずは日本で初めに取り組んでいったということだということでございます。

そんなことで、私もここで十分説明するだけの知識もございませんし、また、そういう今方向で流れていると。刻々とやはり国、県、また地方のそういう関係も改善を進められているということを御報告申し上げたいと思います。

ちょっとあとまた、公務でございますので、中座させていただきますので。

1. 付託案件

⑭ 請願第1号 年金の引き下げを行わないことを求める請願

○川上 命委員長 それでは、ただいまから第42回定例会において、当委員会に付託された議案について審査を行います。

まず、請願1件が当委員会に付託されておりますので、次第の順序を変更し請願の審査を行うことに、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、請願第1号、年金の引き下げを行わないことを求める請願についてを議題とします。

審査に当たり、会議規則第130条の規定により紹介議員の蛭子智彦議員並びに地方自治法第109条第6項の規定により、参考人として、坂本保直様に説明のために出席を求めることに、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、説明を求めることにします。
暫時休憩します。

(休憩 午前10時05分)

(再開 午前10時09分)

○川上 命委員長 再開いたします。まず参考人、自己紹介のほうひとつよろしく願
いいたします。

○参考人(坂本保直) 広田中筋に住んでおります坂本と申します。

きょうは、私ども年金者組合南あわじ支部という団体に所属しているわけですが、支部長の菅育郎の名前で請願を出させていただいたんですが、ちょうど菅育郎どうしても避けられない所業がございまして、かわりに代理出席を認めていただいております。本日は、私どもの話を聞いていただける機会をつくっていただきまして、その点にも深く感謝しております。自己紹介と言いましてもそのぐらいのことですが、それでよろしいでしょうか。

よろしく申し上げます。

○川上 命委員長 それでは、紹介議員より趣旨説明を求めることに、御異議ござい
ませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、趣旨説明を求めます。
蛭子智彦議員。

○紹介議員(蛭子智彦) よろしくお願ひいたします。
それでは、趣旨説明をさせていただきます。

お手元に既に請願書が配付されておりますので、その趣旨を申し上げます。

請願事項、2012年4月からの「物価水準」による年金の引き下げ、10月からの「特例水準」見直しによる引き下げを行わないことの請願でございます。

この請願理由につきましては、その資料にも書かせていただいておりますように、これ少し読み上げさせていただきます。

政府は、2012年4月からの「物価水準」と10月からの「特例水準」見直しによって、大幅に年金を引き下げようとしています。しかし、「物価水準」は政府統計上、下がっているといわれていますが、食料品や灯油など生活必需品は、原発事故の影響もあってむしろ上がっているというのが実感です。また「特例水準」についても、例えばこの間、国保・後期高齢者医療保険料や介護保険料の引き上げ、天引きにより受給する年金額は大幅に減っています。加えて医療費窓口負担や介護保険利用料なども上がっており、年金受給者の生活は、従前にも増して厳しいものとなっています。これ以上の支給額の引き下げは、断じて容認できないということでございます。

この間、いろいろと質疑をする中で明らかになってまいったこととしまして、ここにも書かれておりますように、来年4月から南あわじ市においても、介護保険料は一人当たり月額1,080円の引き上げ。それから、後期高齢者医療の保険料も年額で4,310円の値上げというようなことになっております。国保ですけれども、75歳以上の方は後期高齢者に加入されておられますが、74歳以下の方は国民健康保険に加入されている方が大半でございますが、南あわじ市では、この国保につきましても兵庫県下で一番高い保険料と。そして、その理由として、保険給付費が高いというような情報もあったわけですが、実態を見ますと保険給付費は、市町村41市町の中で38番目という中でありますけれども、非常に医療保険料というのは大きな負担があり、また来年も負担増になるという現状が予想されております。そういう中で、高齢者の方の年金額がこれ以上、下げられるということは大変な負担にもなり、また生活苦にもなるということで、これにつきましてはやはり、なかなか我々地方自治体のものとして、一市町が何かを言ってもなかなかできないわけですが、せめても政府に対して地方自治法に基づく意見を挙げて、その改善を求めていくという。せめてもこういう取り組みをしていただければというようなことが趣旨だと思いますので、どうぞ御理解いただきまして、意見書採択に向けての御同意をいただけたらというふうに思っております。

以上でございます。

○川上 命委員長 どうもありがとうございました。

趣旨説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

小島委員。

○小島 一委員 本題に入る前に、ちょっと年金者組合というのは、ちょっと僕らもう一つなじみがないというか、どういうふうな団体でどういうふうな活動されているのかというふうなこともし説明いただけましたら、よろしくをお願いします。

○川上 命委員長 参考人、坂本さん。

○参考人（坂本保直） 正確には覚えてないですが、20年ちょっと前ぐらいに、ヨーロッパやアメリカのほうへ、労働組合の先輩たちが視察に行ってきたんです。そうしたら、そういう諸国には年金者組合という組合があって、高齢者の生活や権利を守るために運動をしている大きな組織があるということがわかって、日本には老人会というようなものがありますけれども、これはそういう運動なんかはあんまりしませんわね。主に趣味とか行事に参加するとかいうようなことですが、日本にもやっぱり高齢者の権利を守り、生活を改善するための運動をする団体が必要ではないかということで、結成された団体です。

今、全国に約10万人ほどの組織なんですけど、この南あわじでは、まだ100人にちょっと足りませんが、洲本市、淡路市を合わせて、ざっと200ちょっと切れる程度。なかなかこの高齢者ですので、施設へ入所したり、一遍入ったけども組合費がひとつも入らんとかいうような人もあって、確定の人数はなかなか難しいんですが、大体その程度の人が今、組織されていてだんだんと、うれしいことですがふえつつあります。

こういう市に対して、請願を出したり、国に対してもいろんな署名を送ったりして、年金の改善を図りたいと。日本の年金の水準というのが、非常に少ないんです。

○川上 命委員長 もうちょっと端的に。

○参考人（坂本保直） 非常に年金の水準が低いので、ヨーロッパ諸国並みに上げてほしいと、そのためには、最低保障年金制度というのがありますが、日本には、ないので。これがあると、一定の額を一定の年齢以上の全員に保障すると。自分の掛けた分はその上へ積み上げるという形を取ってますので、ヨーロッパ諸国の年金制度は非常にええと。日本もそれに近づきたいということで、結成された団体です。

以上、長くなりましたが。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 これは、国民年金、厚生年金関係なしに加入されているんですか。

○参考人（坂本保直） はい、年金まだ、もらってない現役の方も入ってる方もいらっしゃいます。

○小島 一委員 そうですか。

○参考人（坂本保直） だれでも入れるんです。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 大体、年金者組合というのが、どういうふうな組織なんかないのは、ざっと今説明いただいたわけですけども。これは請願は、平成12年からの特例措置を今回の法改正で、なくすというふうなことに対する請願ですよ。その特例措置、だれでもそら年金でも何でもそうやけど、ようけもらうほうがいい、ありがたい当然思うんですけども、そのようけ払う分にはやっぱりその分の財源とか、次の世代またその次の世代もずっと継続してもらえるような、継続性というのは非常に大事で、なってくるのかなというふうに思うんですけども、そういうことの部分については、何か考えておられますか。

○川上 命委員長 挙手をして。坂本さん。

○参考人（坂本保直） 今の質問の趣旨は、財源をどうするかというようなことでしょうか。

○小島 一委員 はい。

○川上 命委員長 坂本さん。

○参考人（坂本保直） 私もそういう難しいことは、余りよくわからないんですが、問題はこういう地方議会の先生方は、財源をどうするかまで深く考えずに、やっぱり地域の高齢者の気持ちに寄り添っていただくという、それだけでいいんじゃないかというふうに思うんです。しかし、特に財源といわれれば、私は年金の積立金が約200兆円ぐらいあるというふうに言われております。正式な政府の発表があったのかどうかわかりませんが、そういうふうに言われておりますので、これを例えば5兆円ぐらい取り崩したとしても、5兆円ずつ毎年取り崩したって100兆円あれば20年持つと、200兆円あれば40年持つというほどの巨大な積み立てがあるわけで、こんな国は世界にはないんですね。だから、日本の年金財政が苦しい苦しいと言われておりますけれども、実態はそれほどた

くさんの積み立てがあると。しかもこの間も国会で問題になってましたけども、これを投資して6兆円もの損害を出したと。その上に2千何百億円かの手数料まで払っているというようにもありますので、すぐにどこか財源を捻出するというのは大変でしょうけども、今あるお金を取り崩すのでしたら、市の場合でも財政が苦しいときには、基金を取り崩すというようなことがあるんですから、ぜひ年金のほうでも、こういう苦しいときですから、積立金を取り崩すというのが一番手っ取り早いと、私はそう思います。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 20年、40年という頼りない話で、そういうふうな分があるというふうに考えておられると。今、国のほうで社会保障と税の一体化の改革についていろいろさまざま議論されてますよね。その中でこの社会保障の制度が、どういうふうになるのか全く先が見えていない状態のように思います。そういうことの中で、やっぱり我々としても、私としても、そういう簡単に上げろ下げろというふうな議論がなかなかしにくいというのは間違いのないところやと思うんですけども、大体そうですね、年金で年間51兆円ほどいってるんですかね。ですから200兆円あるというても、毎年5兆円ずつ取り崩すというふうな部分のことは、次の世代、またその次の世代なってきたら非常に頼りない部分で、やっぱり制度そのものをどうするのかというふうなことが、見えてこないとなかなか議論しにくいなというふうな部分もあるんです。

とりあえずというふうな話も今、出たんですけども、そのあたり余り無責任なことは私も言えませんので、ちょっと慎重にならざるを得ないのかなというふうに思いますけども、そういう私の考えとしたら、そういうとこなんですけども。特に要りませんので。

○川上 命委員長 ほかに。
登里委員。

○登里伸一委員 私自身は、年金受給者の立場にあります。私自身はこのような、年金と議員としての報酬をいただいておりますが、この年金だけで生活している人が非常に多い高齢者の立場に立ちますと、大変なこの特例水準の値引きするというのは、非常にこたえるだろうと思います。それでなくても介護保険は、年金から天引きしておりますから、やはりどうしても入ってくるのが限られてくる。生活がしにくいだろうと。まだ、デフレの状況にはありますけども、少し株価も経済の主要である株価も上がってきておりますから、この物価下落を政府にどないぞ考慮しないで、せめて今のままの年金受給をしてあげたいと、してほしいという立場で賛同したいと思います。

以上です。

○川上 命委員長 坂本さん。

○参考人（坂本保直） 小島議員からのいろいろなお話も、いろいろ深く考えられて、天下国家の立場でされているというのはよくわかるんですが、私最初に申し上げましたように、南あわじ市の議会としては、やはり地域の高齢者の気持ちに寄り添った判断をぜひしてほしいということが一つです。

それと、この年金を下げらないかんときに下げなかったというのが、2000年から2002年までの3年間で主な部分ですが、そのときの下げなかった理由が、当時の高齢者の生活実態、それから日本経済の状況等を考慮して下げないと。これは私が言うたんじゃなしに、政府がそう言うわけですね。その後、2004年に年金法の改正がありまして、そのときにはこの下げなかった部分を解消するために、今後物価が上昇する状況のもとで、解消するというようなことが法律の中につけ加えられたわけです。すなわち仮に、物価が5%上がったとして、そうしたら物価スライドで年金も5%上げらないかんねんけれども、年金上げるのを3%ぐらいに抑えていたら、2%分が解消すると。また次に、物価が少し上がって、上がった分そのまま年金に反映させるんでなしに、8割か7割ぐらいにしておくかというふうな、措置で解消できるというふうな2004年の法改正ではされているわけです。

したがって、何か我々が不当にもらい過ぎている分を返せというようなことでなしに、生活実態や経済を見た上で、処置されたことですから、今後も生活実態や経済の状況を見た上で措置していけば、ことし10月から下げるというようなことをしなくても、もっと穏やかな形で解消できるのではないかというふうに考えます。

○川上 命委員長 ほかに。
森上委員。

○森上祐治委員 これもう自分の意見とか言うてええということやね。

坂本先生、お久しぶりでございます。私の教師で大先輩でございまして、若いときお世話になりまして、ありがとうございます。

この年金問題、この前、菅さんから出された請願読んで、私もインターネット引いて正直言うて若干勉強させてもらいました。だから今、おっしゃっているようにこれは非常に今、国論を二分するような大きな問題になっております。これずっとインターネット最初に出てくる表なんですけども、改正どのようにされていたかと。これは政府見解だろうと思うんですけど。いわゆる「本来水準」というのがあって、「特例水準」とであると、今「特例水準」で、やっぱり今おっしゃっていたように、もらい過ぎやというようなことで、

この背景にはやっぱりその財源の問題が当然あります。それ以外にやっぱりその社会保障云々の一体改革中で財源をどうするかというような、中からできてきてると思うんやけどもね。私も元公務員でありまして、先ほど先生がおっしゃったその日本年金組合というのはどんな組合かと、淡路で200人ぐらいしかおらへんということで、その辺のバックはちょっと心細いなと思ったんですが、私のバックである公務員連盟、日本公務員連盟とか、いわゆる日本退職者協議会とか、両方ともはっきりいうてやっぱりこの引き下げには反対であるという意見書とか出してあります。そういう観点から、私も一公務員の一人として、まだ決まってないとは言え、決まってないからこそ今国会云々という時期だからこそ、やっぱり地方議会から意見書ぐらいは、ぐらいはというのは失礼な話やけども、出すべきかなというような感じがします。ただ、政府のこの今、金がない金がないというのは、これわかるんですが、しかし、やはりこの前からちょこちょこ周りの先輩に電話してるんですよ。いい話の一つもないですね。とにかく、先生もそうだと思います。退職者というてかなり退職金の目減りがしてると。物価スライド云々というけど、実感としてやっぱり物価が下落したという感覚が全くないというような声が実際強かったですから。だから、今これから、この一体改革どうなっていくか、わかりませんから政府は、やっぱり民主党が政権をとってるんですからね、もうちょっとやっぱり国民の側に立った政策をやってもらいたい思ってるんですが、ちなみに先生、先生は何ぼくらい年金、退職したときと、もう10年からになると大分やっぱり減られとるんですか。退職金は。退職金じゃない、年金は。

○参考人（坂本保直） ちょっとそれは。

○森上祐治委員 一般的な先生の年代。

○川上 命委員長 挙手してください。坂本さん。

○参考人（坂本保直） 済みません。具体的な数字は、ちょっとなかなかあれですけど、下がった額は、そうですね。年間で1万ちょっと超えるぐらいかなと思うんですが。

○川上 命委員長 よろしいですか。ほかに。
久米委員。

○久米啓右副委員長 年金の引き下げということになりますと、先ほど坂本さん言われてように、年金受給者の方には非常に深刻な問題でありますし、直接生活にかかわってくることなので、非常に我々も気にはしてるところでございます。ただ頼りないのが政府でありまして、年金の運用失敗から、見込み違い、その他いろいろ年金に関しては、政府の

やってきたことが、将来の物価上昇も考えておったけれども、一向に改善しないという社会環境の見通しの甘さというのがありまして、その辺が政府がばたばたしておるといようなことではないかと思えます。

我々も、将来年金を受給する年にはなるんですが、政府の考えておるのは、今回の年金引き下げも含めて、社会保障との一体改革の中で、やはりその引き下げだけを考えてるわけじゃないですよ。やはりいろんな制度も抱き合わせてたと思えます。一番大きなのはやっぱり高齢者で、受給者の少ない方への加算ということも言われてます。

ほかに、よく最近、話題になるのがパート職員の30時間を20時間にして、年間所得94万以上にしましょう。その人たちにも、年金加入というような、そういう制度にして、財源も確保したいということで、それも賛否両論あるんですけども、一方的に年金受給者そういう苦しい生活の声を、素直に届けるということも大事かと思うんですけども、一応南あわじ市議会議長名で、政府に意見書届けるとなるとやはり、その辺も含めた、意見という形になっておかないと、どうもその一方的に余りできないかなと思えます。

ですから、その年金受給者の資格があれば、数千円の加算が言われてたと思うんですね。月額。その辺を見きわめて本当に引き下げだけで苦しくなるのか。逆に受給者の低所得の方が逆に受給額が、ふえるのかということがね。まだ先が見えないんですよ。例えば月額、40年掛けた方で6万5,000円ぐらいあって、月それくらいもらってますから、例えば2.5%の引き下げを一気に3年間でやってしまうと、0.8%から0.9%毎年下げていったら、月に600円ぐらい下がるんですかね。500円ぐらいだったか、さっき計算したんですけども、となると年間6,000円ぐらい下がってしまうんですよ。その政府案で3年やりますと。その方たちに、逆に月額数千円の加算も考えられてますので、逆にふえるかもわからないと、この制度ができれば。それはなぜかと言うと、恐らく消費税の改正という担保があつての話だと思うんですよ。ですから、このまま引き下げを反対ということで、挙げていくのがよいのか、それとももうちょっと見きわめて、ただし政府の案、あるいはこれから議論していくと思うんですけども、そういうのが出てきて、これは受給者にとっては、有利な改正やということが見きわめられる状況じゃないので、それは見きわめる状況になってからの意見書というふうに私は思うんですけども、不確定要素が多過ぎるので、なかなか判断しづらいなと思うんですけども、何かその辺で御意見があれば、またお伺いしたいんですが。

○川上 命委員長 坂本さん。

○参考人（坂本保直） 確かに不確定要素が非常に多いんです。多いからこそ今のうちに、意見書を挙げていただけたらと。それでないと閣議決定もし、法案も通るようになってからの意見書では、なかなか政府を動かしがたいと、私はそう思うんです。

低年金者の方に5,000円の加算というようなこともありますけども、一方で、消費税の引き上げというようなこともありますから、5,000円程度の加算では、消費税で飛んでしまうということも十分考えられます。

また、先ほど蛭子議員のほうからもあったように、介護保険が月額で、1,000以上の値上げになるというようなこともありますし、今年金を下げるとような経済情勢、あるいは生活・実態にはないと思うんです。

2004年の法改正のときの趣旨。すなわち、今後経済が上向いて物価が上昇する中で解消するのが、一番穏当な方法ではないかということ強く感じます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 そういう意見ということなんですが、私は、国民年金、厚生年金がターゲットになっていますので、ちょっと不勉強なんですけども、共済年金も影響あったんですか、これね。

○参考人（坂本保直） 引き下げですか。

○久米啓右副委員長 はい。

○参考人（坂本保直） もちろん。

○久米啓右副委員長 税は。年金制度すべてですよね。制度的な話はここで話しても、我々もいかんともしがたいんで、政府もまだ、どういうふうにするか、政党間の調整とか、党内の意見の取りまとめとかが、まだうまくできてないようなところもありますのでね。もう議会もいろいろと年に4回ありますし、時機を逸しない程度にそういう意見書も出せるかなと思うんでね。その辺の政府の案がもう少し固まったほうが、いいんじゃないかというような気がするんですが。菅さんも含めて、今出しておくべきだということの考えなんです。

○川上 命委員長 蛭子議員。

○紹介議員（蛭子智彦） やはり不確定要素ということ言えば、物価の問題あるいは、それはもう言えば切りがないぐらいいろいろな問題が当然あろうと思うんですが、今、国会で実際には審議をされているという状況の中での請願だというふうに理解しているわけです。そこに対してやはり多くの国民の声としてその一つとして、国民の声の一つとして、

地方議会から年金の引き下げを行わないようお願いをしたいという趣旨だと思うんです。その内容については、さまざま御議論があってトータルでプラスになるかならないか、そういう不透明なところであるからこそという趣旨をやはり御理解いただきたいというのが、紹介議員としての思いでもございます。

時期ということは、やはり新年度の予算を国会で審議をしておいて、そこで決められていくこの時期を逃すと、この一年間というのはもうなかなかそれで動いていってしまうわけですから、これはもう議員の皆さんもよく御存じだろうと思いますので、予算が決まればそれで動いていく、いかざるを得ないという状況の中での請願とお受けとめいただければ非常に幸いだというふうに思います。

- 川上 命委員長 ほかに、御意見ございませんか。
それでは、これで質疑を終結させていただきます。
暫時休憩します。済みません。

(休憩 午前10時42分)

(再開 午前10時43分)

- 川上 命委員長 再開をいたします。
紹介議員並びに請願提出者からの説明また質疑が終わりましたので、これから委員間討議を行いますので、ひとつよろしく願いいたします。
森上委員。

- 森上祐治委員 今いろいろ御意見、お伺いする中で非常にこの財源的な問題ですね、今政府もいろいろこう知恵を絞って、年金あるいは社会保障全般についての改革の動きがなされております。ただ、昨今の高齢化社会の中で、少なくとも私の周りの高齢者、年金生活者は悲鳴を上げているのは事実であります。こういう今の現状を踏まえて、先ほど説明ありましたように、今議会で上程されている介護保険とか、健康保険の値上げの問題と、南あわじ市はそういうのに直面しておりまして、やはりこの際、やっぱり国会で上程されているこの時期に、意見書を考えるのであれば挙げるのは筋じゃないかなというふうな感じがいたします。やはりこの年金問題ずっと平成12年、ずっと下がってきてますよね。この下がって、受給も下がってきてるんやけど、本来はもっと下がってて、いわゆる「本来水準」からしたら、いや3%ぐらいもらい過ぎてるやないかというような、これは一方のその財政の専門家、それから政府見解だろうと思うんですが、しかし、やはり年金制度、私自身もそうなんですが長年かけてきて、ずっと減ってきておるとだんだんと。これはか

なわんなど。老後こんな形継続したら、かなわんなどということで、やはりこの辺で、性根入れて政府にも、いわゆるその高齢化社会という、やっぱり戦後体張って生きてきた人たちですからね、そういう老後を保障していくということを腰を据えて政策を打ち出していきたいと観点から、この際意見書を出すということに賛成したいと思います。

以上です。

○川上 命委員長 ほかに。

久米委員。

○久米啓右副委員長 年金問題は、やっぱり人口構成が一番ネックになって、その受給者がふえる、どんどんふえるで、現役世代は少子高齢化の影響で少ないと。結局、原資がないわけです。その上に政府の運用の失敗やら先ほど言いました見込み違い等があつてとにかく、我々が今払ってる年金が将来いただけるときに、もらえるときやっぱり不安感もあります。ですから、若い人に年金払えというても、払ってる率がかなり低くなってきてますよね。50%ぐらいですかね。5、60%。当然、政府、国もそういう年代にやはり加入をさせてやっぱり払うということの政策も必要であるし、払う人がもともと少ないですから、原資がないということになりますと、それを分母がふえてきますと、どのようにして保障するかということになってくるとというのが、政府の悩みの種かと思います。単純にそのまどえというような、ちょっと変な言い方やけども何とかしてくれというようなことになってくると、現役世代とのやっぱり多少の痛みわけも考えていかなければならないかなというふうに思います。

ですから、先ほども言いましたように、下げることには非常に厳しいということで、制度というものは、もう少し見きわめてもいいかなというふうに考えます。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 私も基本的には、久米委員と同じような考えなんですけども。本当にこれ言ってること本当に下げるどころか、逆に上げてくれよというふうな気持ちが皆さん強いというのはよく理解できるんですけども、やっぱり自分たちの息子、孫の時代まで続くんかなと。それどころか自分のもらうときにも果たしてもらえるんかなというふうな不安があるのは確かでございますけども、そやさかいこそ、やはりきちんとした、どう変わっていくのかそこから見きわめた上で、将来に向けてやっぱりできるだけ早急に、対応できるような制度改革やっていくと。ただ消費税があるやないかと、本当に消費税万能じゃございませんので、税をそもそも社会保障に当てるといふことの是非も含めて、やっぱり今国会で議論されておる最中で、僕も休みの日にテレビでいろいろ聞いたりしておるんです

けど、できればもう少し見きわめたいなど、ほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 年金は毎年4月と10月に下がっておりまして、確定申告のときに万台のお金が、これ違ってないかと思うぐらい長年やってきたんで、平成18年まではその状況で、減っていったというのは事実です。年金が減るということは、南あわじ市における購買力が減っていくということで、やっぱり別にこれぐらいのことを何とか政府はやるべきだと思っておりますので、ぜひ採択したいと思っております。

以上です。

○川上 命委員長 ほかに。ございませんか。

ちょっとこの小島委員と久米委員のこの意見のことを、はっきりわからんのですわ。どういふことを言われているんですか。

○小島 一委員 委員会、毎月ございますし、審議継続していただけたらなと思うんですけども。継続です。

○川上 命委員長 継続。

○小島 一委員 続けてね。切らずに。こっちもちょっとね。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 小島委員と同じ意見です。

○川上 命委員長 ただいまの、委員間討議の中で賛成、この採択すべきという意見とそれとほかの方から継続ということが出ておりますので、委員長判断といたしまして、この継続ということに対して、まず採決をした後、その後、採決の結果によりまして、この請願についての採決というような順序を踏んでいきたいと思っております。それでよろしいか。

蓮池委員。

○蓮池洋美委員 今、そういうふうな請願が出てるわけですから、今そのことに対して

採択するのかどうかというほうが優先するのと違いますか。

○川上 命委員長 委員長として、要はこの請願に対しての採決の前に、その継続ということがあるので、それに対して二人の方が出ておりますので、それで委員間の中での討議の中での委員長の結果として、採決諮った中で、それが否決されればこれに移るといようなことにしなければ、そういう順序でいきたいと思っております。

○蓮池洋美委員 今、意見の中で継続が二人、採択すべきというのが二人の意見がありました。私は即採択すべきやと思います。そやからそういう意見を踏まえるなら、もう採択に入るほうがええんと違いますか。

○川上 命委員長 委員長として、はっきりしたいんですけど、委員間討議の中で、そういうことがもうよろしいですよと言えばもうすぐに採決に移りたいと。委員長として、継続審議が出たということで、一応今、結果では3対2になっておりますけど、はっきりとここで意思表示をした中で、結局この請願に対する採決を諮りたいと思います。もうここで、今の場合もう3対2で歴然としてるが、はっきりと。

○蓮池洋美委員 委員長もはっきりしとんだ。

○川上 命委員長 私は、もう中間です。今の場合。

○蓮池洋美委員 中間てか。

○川上 命委員長 委員長として、意見は言えません。

○蓮池洋美委員 何、言いよんねん。

○川上 命委員長 そういうことで、よろしいか。

それでは、委員長の考えとして、ただいま二人の方から継続審議ということで、出ておりますので、まずこのことについて採決を諮りたいと思います。

それでは、継続審議に賛成の方の挙手をお願いいたします。

(挙 手 少 数)

○川上 命委員長 それではもう歴然として、一応、この請願に対するすぐに採決をす

べきという。

○蓮池洋美委員 年齢の差、年齢の差。

○川上 命委員長 3人やね。ちょっと挙げてください。
継続審査に反対の方。

○蓮池洋美委員 反対。

○川上 命委員長 いや、そやけどこれは。

○蓮池洋美委員 なんちゅう採択の仕方しよんのよ、委員長よ。

○川上 命委員長 それでは、継続審査そのものが否決をされましたので、再度、請願第1号、年金引き下げを行わないことを求める請願についてのことについて、採決をいたします。

○蓮池洋美委員 これおかしいわ。

○川上 命委員長 それでは、年金の引き下げを行わないことを求める請願についてを採択すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙 手 多 数)

○川上 命委員長 ありがとうございます。

よって請願第1号は、採択すべきものと決定しました。

採択すべきものと決定した請願第1号について、当委員会で意見書提出の発委を行うことについて、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、発委を行うことにいたします。

意見書案及び提出先については、後刻検討いたします。

暫時休憩いたします。

(休憩 午前10時55分)

(再開 午前11時05分)

① 議案第27号 南あわじ市税条例の一部を改正する条例制定について

○川上 命委員長 再開をいたします。

議案の審査に当たり、提案理由の説明についてお諮りします。

付託案件については、本会議において説明を受けておりますので、質疑から行いたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、提案理由の説明は省略します。

まず議案第27号、南あわじ市税条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

久米委員。

○久米啓右副委員長 この税条例は、9月議会で修正されたもので、あったということなんですけども、もう一度聞きますが、3月議会に再度提出したという理由をお願いします。

○川上 命委員長 執行部。

収税課長垣本君。

○収税課長(垣本義博) 前納報奨金、9月議会に上程して結局は、24年度廃止ということで提案させていただきました。その否決された結果、24年度は予算の審議も終わりましたが、24年度は実施するというので、予算の計上810万円を計上しております。それで、再度ということで実際、24年度から新システムが開始されます。そのシステムにつきましては、もう3月21日から使用します。それにおきまして、それにはコンビニ収納が標準装備されております。今現在、コンビニ収納を25年度開始ということで、その新システム導入に合わせて、その準備をしております。

コンビニ収納の場合、振り替え払いということで、前納報奨金を差し引いて収納することは、収納業者ではできません。そのため、実際25年度からコンビニ収納しますけれど

も、前納報奨金のついた納付書は使用できませんということは、かなり市内の市民の方々に混乱を招くということで、今回再度、提出させていただきました。以上です。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 コンビニ収納の採用ということで、前納報奨金を廃止したいということですか。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） 前納報奨金廃止につきましては、行革の審議会によりまして、選択と集中ということで財政難のおり廃止すべきということになっております。それと、23年度県下で前納報奨金をやっているところは、本市1市と4町でございました。来年24年度なんですけども、24年度につきましては1市2町。本市と他市2町でございます。そういう全国的な流れのもとに、廃止ということを決めております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 行革で廃止すべきという評価があったということなんですけど、確かに800万円ほどですか、年額。廃止すればその分ほかの財源となるのは確かだと思いますが、その他市に倣って廃止するという考え方もあるんですか。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） 前納報奨金は昭和25年に創設されました。そのときは納税意識を向上させるため、あるいは納期内納付を促すということで、そのもとに実施されております。今の低金利の時代、この報奨金はそぐわないのではないかということと、それとあと、前納報奨金がなくても徴収強化をすることによって、徴収率は維持できるのではないかと思っております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 その前納報奨金を廃止して、コンビニ収納を採用すればメリットがあるんですか。市にとって。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） コンビニ収納の場合、恐らく若い方がコンビニへ行かれて、例えば軽自とか税額の低いものにつきましては、24時間いつでも支払うことができますので、そういう方の利用がふえるかなということでは思っております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 その行政側のメリットをお聞きしてるんですけども。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） コンビニ収納で最終的には、私思ってるのは今まで納めていただいている方は、どういう手段でも最終的には納めていただくと。そうだけど例えば、島外者の方で滞納になった方が、交渉の中でうちの指定金融機関と郵便局なんですけども、納めるところが郵便局なんですけども、そんな方がたまに、そんなとこだけだったら休んで納めにいかんとあかんとかいうことも、そういうことも交渉の中でありましたので、そういう方々については、コンビニ収納で、コンビニで支払うことができますのでというお話もできると思います。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 滞納をコンビニ収納という窓口を広げることによって、滞納理由の一つがまあ言えば消せるということですか。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） そういう場合もあります。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 これは非常に大きな問題なんですか。それともそういうケースは少ないんですか、大きいんですか。

滞納理由としての市民のまあ言えば、言いわけみたいなことなんですけども。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） 実際、島外の方でそういう方はおった事実はあります。滞納になったときに分割納付ということで、滞納してる税額を何回かに分割納付ということで、金額も毎月納付ということで、金額も支払う金額を下げますんで、回数は当然ふえてきます。そんなんで、そういう滞納者の方については、払いやすいんじゃないかと思っております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 これは市側にとって、コンビニ収納のそのメリットは滞納者に対する窓口を広げて、払わない理由を減らすということなんですけど、ほかにもっと大きなメリットがあると思うんですけども、その辺は、ないんですか。たったそれだけですか。

○川上 命委員長 市民生活部長。

○市民生活部長（入谷修司） やはり一番大きなメリットは、利便性の向上。24時間365日、全国どこのコンビニでもお支払いができるというのが、非常に大きなメリットかと思います。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 しつこく聞きますけども、やはり一たん修正案とはいえ、実質否決されてますので、しっかりとそのメリットを説明していただこうと思って細かいことまで、お聞きします。この半年前にそういう議案として出てきて、また、半年後に否決のような形で、却下されて半年後にもう一度提案されてきたと。市民に直接影響あることなのですが、この辺、間では何も市民からの行政に対して御意見等はなかったんですか。

○川上 命委員長 市民生活部長。

○市民生活部長（入谷修司） 前回9月議会で御提案を申し上げた中で、名前出して恐縮なんですけど、印部議員のほうからそれには反対する方もおられるというような御意見もございました。それを真摯に受けとめて、慎重に内部でも検討させていただきました。それで、税務課、収税課のほうには、8月に新聞にも出たわけですが、直接役所のほうへはこれは時代の流れでしゃあないなというような御意見はありましたけども、それについて、

何で廃止するのやというような厳しい意見はなかったということでもございますし、やはり今言う市としてのメリット、利便性の向上ということの中で、特に分納誓約者に対しては言いわけを許さない、滞納の言いわけを許さない、そしてまた納期内納付を促すような制度でございますので、慎重に検討させていただいて一年間、もう一年間続けてやらせていただくということの中で、今回24年度末で持って廃止という案で御提案をさせていただいてる次第でございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 行政にとっては利便性向上ということは、結局、経費削減につながるということかなと思うんですが。

○川上 命委員長 市民生活部長。

○市民生活部長（入谷修司） 経費削減にはつながりません。一件、口座振替の場合この間の予算委員会でも御質問ございましたけれども、口座振替の場合は21円。コンビニ収納の場合は約60円一件に当たりにつくという話の中で、その部分の経費もかかります。それでまたやはり、今までやってきた歴史のある制度をそのまま、何も変えずにそのまま継続するのは職員としても楽なんです。そのまま継続してずっと続けていくのが楽なんです。やはり時代の流れの中でそういったコンビニ収納というのはこれからの収納拡充の機会の拡充を考えるとときにはやはり取り組んでいく必要があるという認識のもとに、判断をさせていただきました。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 9月のときにも委員会で説明があったと思うんですが、その特別徴収者との不公平感があるというふうに部長言われておったと思うんですけども、その辺再度お願いします。

○川上 命委員長 市民生活部長。

○市民生活部長（入谷修司） 特別徴収、今二つ種類がありまして、給与からの特別徴収と、去年一昨年10月から始まった年金からの特別徴収がございます。それで、固定資産税はともかくとして、特に住民税の場合は普通徴収よりも天引きされる特別徴収者のほうはふえてきておりまして、これは選択によって普通徴収にかえるというようなことで

ないわけでございまして、そこにはやはりそれを制度を利用したくてもできない方がおられるというような問題があるかと思えます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 市町村民税の場合は、特別徴収あるんですけども、固定資産税の場合は普通徴収だけですよね。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） すべて普通徴収でございます。
前納報奨金、固定のほうは31.1%の方が利用しております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 固定資産に関しては不公平感というのではないと思うんですが、これやっぱコンビニ収納というツールをふやして、利便性をふやしたいということですが、固定資産税についても。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） 基本的には前も申しましたけども、6割の方が口座振替でございます。固定につきましては、恐らく振替の方が前納報奨金、前納されていると推測できます。ですから、逆に言うたらその方がコンビニ収納を利用するかと言うたら、何回も言いますが、税額の小さい軽自の4,000円とか7,200円、そういう支払いがコンビニ収納ではふえると。そんなふうに思っております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 県下では1市2町来年度ですね、24年度なるということなんですけども、全国的なそういう動きは調べてますか。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） 全国的には調べておりませんが、そういう傾向にはあるとは

思います。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 納税というのは、市民国民の義務ですよ。払わなければならないということで、この前納報奨金は全部一遍に払った方にそういう特典を与えると、一応税法で認められておる状況なんですけども、昭和25年から今までそういう方に報奨金を、地方自治体を与えてきたということについては、どのように考えてますか。

○川上 命委員長 市民生活部長。

○市民生活部長（入谷修司） この制度自体、固定資産税と住民税だけ、税でもこれ2税しか認めておらない制度ということの中で、当然戦後の混乱期に起こった制度の中で、自主納付の推進というのはこの制度を持ってやってきたということでございますので、当然今まではメリットはあったかとそのように考えております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 ぼちぼち終わりにしたいんですが、この自治法にはそういう改正の動きはないんですか。そういう報奨金制度の廃止というような。

○川上 命委員長 市民生活部長。

○市民生活部長（入谷修司） これとともにあった納税貯蓄組合の納付奨励金というのがあったんですけども、これは小田原市長が訴えられて違法判例が出たんで、もう各自治体廃止という中で進んでおりますが、この固定資産税、住民税に関する全期前納報奨金については、法の改正については特には聞いておりません。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 報奨金廃止しても、前納システムは残るんですよ。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） 同じように残ります。

○川上 命委員長 ほかに。小島委員。

○小島 一委員 9月でも今、久米委員が言うたよう問題点ともう一つ、余りにも性急過ぎないかというふうな部分の議論があったように思っておるんですけども、今後一年かけてどのように啓発啓蒙して、周知していくんかということでお聞きしたいんですけど。

○川上 命委員長 収税課長。

○収税課長（垣本義博） 当然今言う振替の方が、前納の方が多いんですけども、広報とかさんさんネットテレビとか利用しまして、その周知を図っていきたいと思っております。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 9月から半年でまた再度出されてきた。前回私は賛成のほうにまわったわけですけども、確かにこのどちらにしても、この既得権というか今までもらってたものが、もらえなくなることに對する不平不満、それから逆に厳選された方がしたくてもできないということに對する不平不満というふうなどっちにしたって出てくることなんよな。そやからきちんと、一番ええのはこれはもう問題点はっきりして、やっぱりこれを廃止するなら廃止する。戦後いうても、戦後60年も70年もたってきた中で、時代背景が全く違ってきているということも、ひとつあろうかと思うんで、一たん決めたものはなかなか廃止するのこんだけ難しいものかというふうな感じがしております。その辺について、やっぱりきちっと行政としてやっぱり示していただいて、やっぱり納税は国民のやはり義務ですので、払ったから報償もらえるというふうな筋合いのものでは本来ないというふうにご考えてますので、その辺よろしくお願ひしたいと思ひます。

○川上 命委員長 市民生活部長。

○市民生活部長（入谷修司） おっしゃるとおり、そのように頑張っていきたいと思ひます。それで、納められてる方には2種類、現金で納められてる方と口座振替で納められてる方、それでやはり口座振替でもう私は第一納期に全部落としますという方、この方々についてはもう十分にその意向を調査した中で、どちらを選択するかというふうな話も当然きちっとしていかなければならないと、そのようには考えてございます。

○川上 命委員長 ほか。

質疑がございませんので、質疑を終結します。

これより委員間討議を行います。

久米委員。

○久米啓右副委員長 その報奨金制度というのが、税法で認められておるんですが、先ほども小島議員言われよったその義務を当然果たして出さなければならないといいことで、それに対して報奨金を長年出してきたという背景はもう既にそういう時代ではないという執行部側の意見は最もかなと思います。これを残すということになりますと、税に対する通常払ってる人への不公平感と、市民税に関しては、というのはそれはもう否めないかなと思います。固定資産に関しては、そういう何ですか前納は皆さんに広がっておるんですけども、その報奨金という観点から考えますと時代にそぐわないというようなことで、前は、上位法の改正とあわせた審議だったので、一たん取り下げのような修正案を私のほうから出したんですけども、今回はやはり税の公平さから見るということで、市の提案は妥当かなというふうに判断します。

○川上 命委員長 ほか。

意見がございませんので、討議を終結します。

これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第27号、南あわじ市税条例の一部を改正する条例制定について、原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙 手 多 数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第27号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

② 議案第28号 南あわじ市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例制定について

○川上 命委員長 次に、議案第28号、南あわじ市廃棄物の処理及び清掃に関する条

例の一部を改正する条例制定についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

久米委員。

○久米啓右副委員長 この条例の23条の中で、改正点でもあったかなと思うんですが、環境省令で定める、これは新しく入ったんですよね。その辺説明、お願いします。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） お答え申し上げます。この資格なんですけれども、環境省がみずから、試験を行う制度ではございませんでして、環境省は日本環境衛生センターというところに、技術者に必要な能力の認定を行っております。それでその内容につきまして、簡単に申し上げます。

まず、講習と試験というような形でとり行っております。コースの種類は7種類でございまして、ごみ処理施設初め、破碎・リサイクル施設、また細菌・バイオマス利活用関連施設というような形で7種類となっております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 その7種類の資格ですが、市の設置しておる廃棄物施設には、そういう方、やばなことかと思うんですけども、そういう資格持っておられる方7つの資格持っておられる方は、配置されておるんですよね。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） 南あわじ市の管理する施設につきましては、3カ所ございます。清掃センター3人、衛生センター2人、そして産廃に関連しますので生活環境課で1人資格を有しております。

○久米啓右副委員長 終わります。

○川上 命委員長 ほかに。

質疑がございませんので、質疑を終結します。

これより委員間討議を行います。

ございませんか。

意見がございませんので、討議を終結します。

これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第28号、南あわじ市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例制定について、原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手多数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第28号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

③ 議案第29号 南あわじ市墓地、埋葬等に関する条例制定について

○川上 命委員長 次に、議案第29号、南あわじ市墓地、埋葬等に関する条例制定についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

森上委員。

○森上祐治委員 この条例の趣旨というのは、最近全国的にはいろいろ墓地を経営する業者とかこうふえてきているというふうな背景のもとに、新たにこういう墓地を経営したいという人のためのものなんですかね。既存のそういう墓地何かは関係ないということですか。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長(高木勝啓) まず、この条例の趣旨を申し上げます。権限委譲によりまして、まず墓地・納骨堂及び火葬場に係る経営許可の権限でございます。

それとまた、変更許可及び廃止許可に伴うところの事務権限でございます。

そしてまた、今まで申し上げました権限委譲と合わせまして施設への立入検査等。施設の整備改善命令等を行うための条例でございます。

もう一つ、墓地の経営につきましては、基本的に地方公共団体、宗教団体、それとあと一部地元が昔から経営してる墓地について、拡張なり許可をしてまいりました。

以上でございます。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 何でこういうことをお聞きしたかという、第7条に墓地の設置場所云々と書いてあります。2番目に学校、病院その他公共的施設または、住宅から110メートル以上離れた場所であることというふうなこと書いてあるんですけども、火葬場については第10条に220メートル以上離れた場所でなければならないと書かれていますよね。その110メートルとか220メートルというのはこれは全国的にそういう基準というのはあるんですか。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） これは、県規則から引用したものでございますけれども、この距離のことなんですけれども、これは古い歴史がございます。

まず、明治政府ができてからその距離を目安として行ったんですけども、60間の距離を110メートル、そしてその倍の120間の距離を220メートルというようなメートル法に置きかえた距離でございます。その根拠といたしましては、これはやはり古くから慣習、習慣に基づいて宗教的に影響のない距離とこのように認識しております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 これから、新しくつくっていく墓地というのは、当然こういう基準のもとにつくられていくんだと思うんですけど。現に今、市内にいっぱい小さな大小墓地ありますよね、私の墓地なんかは、先祖に墓地は110メートルも絶対離れとれん。すぐ横に民家ありますよ。ああいうのもやっぱり、それは市のほうがもちろん許可されておるのかな。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） やはり個人的にあるものにつきましては、今あるもの等につきましては、届けも何もございませんので、それを許可相当というようなものから、外れるものと考えております。そしてまた新規の分につきましては、やはり申請を上げていただいて、それがそういう基準にあっておるかどうか審査します。それともう一つなんですけれども、やはり墓地経営につきましては、経済的なものを目的だけにされたら困り

ますので、やはり長く続くような団体等でなければ許可できないと、このように考えております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 この際ちなみに教えていただきたいんですが、ああいう今、最近できた非常に大きな共同墓地ありますよね、一方では私の先祖みたいに近隣のいわゆる昔町内会隣保的なレベルで、10軒ぐらいが共同でつくっていると、あの墓地というのはどこの土地なんですか、やっぱり町内会の土地なんですか。教えていただきたい。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） これは非常に種類が多ございまして、町内会であるものもありますし、やはりお寺さん、お寺さんの所有しているものが少し大きくなりますと、やはり神社が所有しておるものが大半と認識しております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 神社が管轄してるんですか。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） その件につきましては、昔、神社とお寺が一緒にこうやってたような歴史がございますので、一概に神社は墓地がおかしいとかそういうものではなく、やはり神社の土地所有しているケースもございます。

○森上祐治委員 わかりました。ありがとうございます。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 関連して同じようになるんですが、既設といいますとほとんどお寺にお墓ありますね。そうしますとそれが110メートル離れるという意味は昔から離れていたのかもしれませんが、どこから、地図上の110メートルですか、直線距離の、それとも。それともう一つは、3分の1以上の緑地となっておりますね。寺院の場合は、どんなようなもうこれクリアしてるという意味でよろしいんですか。とにかくお寺のあるお墓は、大

丈夫なのかどうかだけまず聞きたいと思います。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） お答え、答えから申し上げます。大丈夫でございます。それとあと、どうしても昔の墓地を拡張したいというときにつきましては、やはりこの110メートルがなかなかクリアできないということもございます。これは拡張というようなことで、その110メートルにかかる住宅居住者等の同意を得ていただくというような形で、こちらのほうも申請いただいたらそこで、審査するというような形をとってございます。

○登里伸一委員 わかりました。

○川上 命委員長 よろしいか。ほかに。
質疑がございませんので、質疑を終結します。
これより委員間討議を行います。
ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○川上 命委員長 意見がございませんので、討議を終結します。
これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。
議案第29号、南あわじ市墓地、埋葬等に関する条例制定について、原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（挙 手 多 数）

○川上 命委員長 挙手多数であります。
よって議案第29号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

④ 議案第30号 南あわじ市保育所設置条例の一部を改正する条例制定について

○川上 命委員長 次に、議案第30号、南あわじ市保育所設置条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

久米委員。

○久米啓右副委員長 本会議の中でも、長船議員が質問してたんですが、この120の定員を90に改めるといふこの定員を下げるこの意味ですね、いろんな意味があるかと思うんですけども、財政的なこととかいろいろあると思うんですが、その辺ちょっと教えていただけますか。

○川上 命委員長 福祉課長。

○福祉課長（鍵山淳子） 福良地区におきましては、人口が就学前の人口が年々減少しております。それで、ちどり保育所定員が120人で、それと福良にはもう1カ所民間の保育園があるんですけども、そこが60人です。全部で定員が合計が180人となるんですけども、福良地区には就学前の児童が平成23年4月1日現在で、168人となっております。そして園児が極端に減少しておりますのと、それと福良保育園におきましても、60人の定員から50人に4月からの変更申請をしております。

片方の民間のだけを変更して減少の手続きをしておりますので、同時に公立のちどり保育園におきましても、120人から90人という適正な児童の人数ということで、今回定員変更の条例を一部改正をするものです。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 この職員の配置は、実質的な保育園児の数でいくんですか、その条例の数でいくんですか。

○川上 命委員長 福祉課長。

○福祉課長（鍵山淳子） 職員に数につきましては、実質的な園児の数で、ゼロ歳児につきましては3人に1人。1・2歳につきましては6人に1人。3歳児につきましては20人に1人。4・5歳児につきましては30人に1人の職員数となっております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 職員の配置については、定員の条例数は関係ないということですよ。あるような意見も聞いたんですけども、条例にしばられるところはあるんですか。

○川上 命委員長 福祉課長。

○福祉課長（鍵山淳子） 90人の以下の保育所につきましては、最低基準の中で1名加配できるとなっております。ですので、人数が先ほど申したように3対1とか6対1とか決まってくるんですけども、プラス1名の職員を加配することができます。

○久米啓右副委員長 わからん。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 今の福良の保育所の定員が120名から90名へとやっぱりだんだん少子化の歯どめがとまらないというような現状が事実を厳しくあると思うんですがね。学校もいわゆる教育施設の適正化、適正規模云々ということで、今、統廃合の問題が進んでおります。学校、小中学校とか幼稚園というのは教育施設ですからね、教育ですよ。だからやっぱり適正規模という考え方がある。いろんなその教室の授業だけじゃなしに、運動会とかいろいろ学習発表会するのでね、ある程度の規模が子供の集団生活云々では必要であるというような考え方があるんですが、保育所はもちろん福祉施設ですからね。といえども、教育機能も多分にあると思うんですよ。その辺で保育所の適正規模云々というのは考え方がもともとあるんでしょうか。ちょっとお聞きしたい。

○川上 命委員長 福祉課長。

○福祉課長（鍵山淳子） 保育所につきましては、児童福祉施設でありますので、保育にかけるというのが一番の前提となっております。当初は、ちどり保育所ができたときは、180人で次が240人の施設という定員変更をずっと変更して、最大240人から今の今回90人に下げるといったような経緯になっております。ですので、どれだけで適正なのかではなしに、そこの保育にかけるという観点からなりますので、どれだけの方の子供、福祉的な観点になりますので、規模とかいうよりも地域の子育ての一支援ということには、そちらのほうに観点が行くと思います。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 ということは、先ほど申し上げたように、学校だったら余りにもその人数が減ってきたら、やっぱりその教育的な観点から、統合という話がこう急速に出てくるんですよ。事実。

ところが保育所というのは、今おっしゃったようにいわゆる福祉施設やから、保育にかける親の子供たちを、保育するということですので、例えば5人とか6人とかなくてもそういう財政的な観点から問題が出てくるかもわからんけども、保育という面では全く考える必要がないということですね。

○川上 命委員長 福祉課長。

○福祉課長（鍵山淳子） 全く考える必要がないかというたら、そうでもなくて、3人とか5人とかになると保育ができない、逆に保育ができないというような状況になります。認可保育所におきましては、そういう保育ができないということになりますので、例えば今回灘の保育所、休所するということに4月からするんですけども、このたびも今年度は3名でスタートしたんですけども、それではちょっとそこの保育所だけでは無理があって、23年度は、阿万保育所と月の3分の1ぐらい交流をしながら、進めてきました。それがないと子供たちの育ちが、健全な育ちができないということで、交流を進めました。それで、24年度は1人ということだったので、とても1人で保育にかけるというだけではできないので、阿万保育所ほうへ、その子供がいくということになってますので、極端にその人数が少ないからといって、受け入れを続けるということは、それも困難な状況です。

○森上祐治委員 わかりました。終わります。

○川上 命委員長 よろしいですか。ほかに。
質疑がございませんので、質疑を終結します。
これより委員間討議を行います。
ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○川上 命委員長 ないですか。
意見がございませんので、討議を終結します。
これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第30号、南あわじ市保育所設置条例の一部を改正する条例制定について、原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手多数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第30号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

⑤ 議案第31号 南あわじ市介護保険条例の一部を改正する条例制定について

○川上 命委員長 次に、議案第31号、南あわじ市介護保険条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

ございませんか。

登里委員。

○登里伸一委員 26年度までの概算、この保険料だと思うんですけども、これは5期が終わるまでは上がりませんね。その辺はどうなのでしょう。

○川上 命委員長 長寿福祉課長。

○長寿福祉課長(小坂利夫) 平成24年度から26年度までの保険料を定めるものでございまして、この期間については上がることはございません。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 このたびのこの資料、この介護保険料の資料は非常に、我々にもよかったものと思います。一般会計から投入場合も、全国で1市か1町しかありませんから、これはもうどうしても維持するためには必要だろうということで、特別委員会では賛成しておりますので、何とか維持して頑張ってもらうよりは仕方ありませんので、よろしくお願ひしたいということで終わります。

○川上 命委員長 答弁は要りませんな。

ほかに。

質疑がございませんので、質疑を終結します。

これより委員間討議を行います。

ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○川上 命委員長 意見がございませんので、討議を終結します。

これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第31号、南あわじ市介護保険条例の一部を改正する条例制定について、原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙 手 多 数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第31号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

暫時休憩をいたします。再開は午後1時より開催いたします。

(休憩 午前11時55分)

(再開 午後 1時00分)

⑥ 議案第32号 南あわじ市地域密着型サービス運営委員会条例の一部を改正する条例制定について

○川上 命委員長 再開いたします。

議案第32号、南あわじ市地域密着型サービス運営委員会条例の一部を改正する条例制定についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はございませんか。

ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○川上 命委員長 質疑がございませんので、質疑を終結します。

これより、質疑がなかったら、委員間討議もないわ。

意見がございませんので、討議を終結いたします。

これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第32号、南あわじ市地域密着型サービス運営委員会条例の一部を改正する条例制定についてを原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手多数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第32号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

⑦ 議案第33号 南あわじ市福祉医療費助成条例の一部を改正する条例制定について

○川上 命委員長 次に、議案第33号、南あわじ市福祉医療費助成条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

久米委員。

○久米啓右副委員長 この県の要綱の改正に伴ってということで、南あわじ市では対象者がいないというふうに答弁してきたかなと思います。合計が23万5,000円以上になるという、もしわかってたらこれに近い世帯というのはおられるかどうかというのは、わかりませんか。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長(川本眞須美) 今、対象世帯がないという話でございましたが、県要綱の改正に伴う同じ改正をした場合、現在は所得判定の単位を同一世帯の最上位所得割者か

ら、同一世帯を単位とする世帯合算にした場合に、ことし7月の更新時でありませんと、はっきりとした数字はわかりませんが、現在の所得割額で合算いたしますと1月末現在の重度障害者医療の対象者が464名いらっしゃいますが、そのうち14名が対象外となります。乳幼児医療では3,714人中134名が対象外となります。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 例えば乳幼児3,714名中134名が対象外、それ以外はこれ対象になるということですか。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） 乳幼児医療でございましたら、現在医療の対象が3,714名でございます。そのうちの134名が対象外、今、それも今の所得割の額でございますが、134名が対象外となる予定でございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 ちょっとわかりにくいんですが、本会議の質疑のときに、これに該当する世帯はいないというふうに、部長、答えていませんでしたか。

○川上 命委員長 健康福祉部長。

○健康福祉部長（郷 直也） あのととき条例提案させていただいたときに、蛭子議員のほうから、御質問があった件ですけれども、その中で私は準備をしていたわけなんですけれども、この非該当になる数。蛭子議員のほうが自主的にこれについては、南あわじ市については該当しないというふうな形で議員がそういうふうに自分でして、私が決して該当者が無いと言うたわけではございません。私は準備しておりました。蛭子議員の何かの勘違いだと思ふんですが、そういうふうに解釈されて質問がなかったということで、特に御答弁はいたしませんでした。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 部長が答えたように思って書いたんですが、実は蛭子議員のほう
が勝手にしゃべってたということですか。それともう一遍お願いします。重度障害者の方

は464名ですか。ちょっともう一度、数字だけお願いします。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） 1月末現在で重度障害者の方が464名、そのうちの14名が非該当となる予定でございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 最終的には7月にならないとわからないということなんですが、それと、市町村民税のその算定については当分の間、改正前のものによるというふうになっていますよね。これ当分の間というのは何かこれも県の要綱からきてるんですか、その当分の間の根拠ですけども。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） 県要綱でそのようになっておりますので、同じように規定しております。

○久米啓右副委員長 わかりました。終わります。

○川上 命委員長 ほかに。ございませんか。
質疑がございませんので、質疑を終結します。
これより委員間討議を行います。
ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○川上 命委員長 意見がございませんので、討議を終結します。
これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。
議案第33号、南あわじ市福祉医療費助成条例の一部を改正する条例制定についてを原

案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙 手 多 数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第33号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

⑧ 議案第34号 南あわじ市公民館条例の一部を改正する条例制定について

○川上 命委員長 次に、議案第34号、南あわじ市公民館条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

質疑がございませんので、質疑を終結します。

これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第34号、南あわじ市公民館条例の一部を改正する条例制定についてを原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙 手 多 数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第34号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

⑨ 議案第35号 南あわじ市図書館条例の一部を改正する条例制定について

○川上 命委員長 次に、議案第35号、南あわじ市図書館条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

森上委員。

○森上祐治委員 この前の本会議の質疑の中で、いわゆるこの協議会の8名の委員について、公募云々というような公募はしないのかと、というような質問がありまして、現在協

議中であるというような答弁がございましたが、いつから具体的にもう日程についてやっ
てるのでしょうか。

○川上 命委員長 生涯学習文化振興課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 先の総務委員会のほうで、御報告されたような
んですけども、公募の委員につきましては1割以上を予定させていただくというよう
なことで、したがって図書館協議会のほうについては8名いらっしゃいますので、1名以上は
公募による委員の選定を改選時には行っていく必要があるということになるかと思いま
す。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 ということは、4月24年度から新たにそういう方針で臨むというこ
とでございますか。

○川上 命委員長 生涯学習文化振興課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 現行の図書館協議会の委員さんの任期が、平成
23年4月1日から25年3月31日までの2年間というふうなことになりますので、今
度の改選が平成25年4月1日からというふうなことになりますので、その間は現行のま
まの委員でいく予定をしております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 この図書館協議会というものなんですけども、私も昔、教育委員会に
勤めたことがありまして、間接的にはかかわってたんですけども、実質どんな仕事をされ
てるのかも一つ見えてこなかったような記憶がありますが、実質1年間にどの程度会を
されて、どんな内容で協議をされてるのか教えていただけますか。

○川上 命委員長 生涯学習文化振興課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 年間2回程度の協議会をもたれております。私
も4月以降に、図書館担当の課長というようなことで、つい過日、協議会のほうにも出席
いたしまして、その際については今後の図書館の再編の部分についての意見を、各委員さ

んからお伺いしたと。また、図書館でのいわゆるイベント等といった事業についても、御意見をお伺いしているというような状況でございます。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 具体的にはその図書館の運営そのものまでというのは、難しいかもわからんけども、南淡図書館ですよ。もう7、8年前、私が勤めてたところに図書館の閲覧室で、将棋をされてた人がおったんですね。そこでちょっと議会とか何かで問題になって、当時の館長さんが、ほかでしてくださいよというて、私もちょこちょこ図書館行くんですが、ずっとなかったんですよ。最近今度は閲覧室の中じゃないねんけど、ロビーでというか廊下でいすがありますよね。あそこでこうされてます。あの辺は別にまあ静かにされてるから問題なからうと、私は思ったんですがその辺は何かそういう話があったんか、何か課長はその辺の情報何か聞いてますか。

○川上 命委員長 生涯学習文化振興課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 開架庫じゃなしに、ロビー等で実際にやられてるようでございます。そんな中で、ほかの一般のお客様の邪魔というたら失礼なんですけども、そういうふうなケースになりますと、図書館のほうから御注意をさせていただいてるということで、報告も現場のほうから受けております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 この8名のメンバーについてなんですけども、今回は学識経験のあるもの云々ということをも明記されてます。改正前のものはそういう学識経験のあるものとかそんななかったんですか、何かそういう具体的に人選の上で、基本的に選ぶ基準とか何か変わったでしょうか。

○川上 命委員長 生涯学習文化振興課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） この任命基準につきましては、先には図書館条例施行規則のほうで、全く同じ内容でうたわれておりました。ただ今回、上位法の改正で市の条例でその規定を設置しなさいということになりました。そんな関係での条例改正でございます。内容は何ら変わっておりません。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 この8名の図書館協議会の委員というのは、ある意味で南あわじ市、そういう立派な図書館が2つ、3つあるということ将来は1つに云々と今、動いているような話はもちろん聞いてるんですけども、どういう具体的の方々が名前はもちろんいえんだろうけども、例えば職種とか、どういう形で今までの8名というのは人選をされてたのでしょうか。

○川上 命委員長 生涯学習文化振興課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 人選の依頼につきましては、自治会さんのほうに推薦をゆだねております。ただ当然その地区ごとから図書に通じた図書館の利用をよくされる方、また学識経験としましては学校代表の先生が1名、また社会教育委員会のほうから委員さん1名、そういった中での人選になっております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 私の中のその書庫ですよ、後ろのほうの裏の書庫、相当やっぱり専門書が、課長見たことあると思うんですが、南淡図書館は非常にたくさんある。一般の市民が当時南淡町の市民でこんな本を読む人がそんなにいないんじゃないかというような本が非常にたくさんあったように。最近、その図書の選定については、この図書館の職員初めいろいろアンケートにかなりいろいろとこう幅広にやっていると想定するんですけども、一遍見てみなさいよ。当初の図書館の奥にしまっているやつですよ。これはすごい本がたくさんあります。だからそういう人選についても極力やっぱり市民の図書館ですからね。大学図書館とか県立図書館とか違うんやから。その辺の人選をきっちりこれからやっていただきたいと思います。

以上です。

○川上 命委員長 よろしいか、答えは。

○森上祐治委員 はい、結構です。

○川上 命委員長 ほかに、ございませんか。
質疑がございませんので、質疑を終結します。
これより委員間討議を行います。

ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○川上 命委員長 意見がございませんので、討議を終結します。
これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。
議案第35号、南あわじ市図書館条例の一部を改正する条例制定についてを原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手多数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。
よって議案第35号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

⑩ 議案第3号 平成23年度南あわじ市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)

○川上 命委員長 次に、議案第3号 平成23年度南あわじ市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)を議題とします。
これより質疑を行います。質疑はございませんか。
久米委員。

○久米啓右副委員長 44ページですが、確定分ということで、報告されておったんですが、例えば保険基盤安定繰入金が780万円減額。ほかに大きいのが財政安定化支援事業繰入金がもともと3,100万円だったのですが、これ1,200万円減額なんですけども、この辺のちょっと事情を教えてください。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長(川本眞須美) 当初予算と申しますのは、あくまでも23年度の見込みということでございましたので、このような数字を挙げておりますが、例えば保険基盤安定繰入金でございますと、実際の4月1日の南あわじ市の7割、5割、2割の軽減者の方の

計算をいたしますと、このような額になるということでございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 ということは、確定するのがいつになるんですか、4月1日というのは一応想定してはじいて、確定したということなんですけども、確定するのはいつなんでしょうか。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） 10月に申請を行いまして、2月に確定をしております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 はい、わかりました。それと財政安定化支援事業を繰入金で、減額がかなり大きいと思うんです。これはまた事情が多少違うと思うんですが、これも同じ事情ですか。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） この分につきましては、先日の総務委員会でも議題に上がっていたかと思うんですけども、あくまでも交付税算入でございますので、こちらで詳しい計算というのは、はっきりとはわからないんですが、県下の状況を見ておりますと、兵庫県に今回配分されたものが、去年に比べまして4億7,000万円減になっております。県下ほとんどの市町が、減額になっておりますので、何らかの算定の基準があつてそのような配分になったものと思っております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 ちょっと調べてみますと、低所得者が多いとか高齢者の割合が高いとかいう、自治体のその保険者の事情によるための繰入金というふうなことなんですけども、これはもう県下一律にこういう割合で減額になっているということではないんですか。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） いえ、そういうことではございません。その割合がどうともわからないというところでございます。ふえているところもでございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 減額になったというのもわからないということ、その減らされたというのも、そういう通知があったということなんですかね。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） こちらに通知がきますのは、その算入額が幾らであるということのみでございます。

○川上 命委員長 ほかに。
よろしいか。久米委員。

○久米啓右副委員長 46 ページで、財源組替が2つありましたよね。これも国、県の支出金が減って一般財源なりで賄ったということなんですけども、これも一方的に減らしてきたということではないんですかね。国、県が。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） 例えば保険給付費の一般被保険者療養給付金の場合の国、県支出金マイナス132万円といたしますのは、国民健康保険の指導者育成事業補助金というものが、44 ページにもございます。これが当初に予定では900万円でしたが、768万円という通知がまいりましたので、その分を減額しております。その他の部分で、2,075万7,000円というのは基盤安定の軽減であったり、財政安定化資金の減が主な原因でございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 その件はそれでいいですが、もう一つですが50ページのこれもちょっと教えてほしいんですが、繰入金。一般会計と運営費繰入金を入れかえてるような、表になっているんですけども、この辺の事情もお願いします。

○川上 命委員長 保険課長。

○保険課長（川本眞須美） 失礼いたしました。先に事業勘定繰入金の説明をさせていただきます。これは、特別調整交付金で国保診療所の赤字分の補てんとして決まってくるもので、年間の診療日数によって決まってまいりますので、1月から12月までの診療分でございますので、これもまだはっきりとした決定はきておりませんが、3月にこのような額に決定する予定でございます。なので、その分の一般会計の繰入金をその分を差し引くという形でございます。

○久米啓右副委員長 終わります。

○川上 命委員長 ほかにございませんか。
質疑がございませんので、質疑を終結します。
これより委員間討議を行います。
ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○川上 命委員長 意見がございませんので、討議を終結します。
これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。
議案第3号、平成23年度南あわじ市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）を原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（挙手多数）

○川上 命委員長 挙手多数であります。
よって議案第3号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

⑪ 議案第4号 平成23年度南あわじ市老人保健特別会計補正予算（第1号）

○川上 命委員長 次に、議案第4号、平成23年度南あわじ市老人保健特別会計補正

予算（第1号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

久米委員。

○久米啓右副委員長　これは、今年度でもうこの特別会計廃止ということですよ。医療費給付が380万円ほど見込んでたんですけども、これもなしということで、この4,000円は事務費ですか。医療、57ページの歳出の医療費給付がないと思うんですけども4,000円は事務費か何かですよ、多分。

○川上 命委員長　保険課長。

○保険課長（川本眞須美）　これは、補正から3月末までに医療給付があるかもわからないということで残しております。現在はございません。

○川上 命委員長　久米委員。

○久米啓右副委員長　最後に、10万1,000円一般財源戻して、もう精算ということですね。

○川上 命委員長　保険課長。

○保険課長（川本眞須美）　そうでございます。

○川上 命委員長　ほかにございませんか。
ないですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○川上 命委員長　質疑がございませんので、質疑を終結します。
これより委員間討議を行います。
ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○川上 命委員長　意見がございませんので、討議を終結します。

これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第4号 平成23年度南あわじ市老人保健特別会計補正予算(第1号)を原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手多数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第4号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

⑫ 議案第5号 平成23年度南あわじ市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)

○川上 命委員長 次に、議案第5号、平成23年度南あわじ市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)を議題とします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

ございませんか。

質疑がございませんので、質疑を終結します。

これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第5号、平成23年度南あわじ市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)を原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手多数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第5号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

⑬ 議案第40号 洲本市・南あわじ市衛生事務組合規約の変更について

○川上 命委員長 次に、議案第40号 洲本市・南あわじ市衛生事務組合理約の変更についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑はございませんか。

小島委員。

○小島 一委員 規約の改正ですけれども、この規約の中に各市の負担金の分担割合は、人口割合というふうに書いてあるんですけども、これは洲本市と五色町、緑町の時代の協定書の中に、ごみの量と人口比とで負担割合を決めるというふうに、協定されておったんですけども、その分が反映されていないということについてお尋ねをいたします。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） 先ほどの御質問なんですけれども、実はこのごみ量割というのは引き継ぎ文書になかったもので、過去にさかのぼって探しておったところ、最近まで私も知らなかったことなんですけれども。この文書につきましては、2種類ありまして、1つは平成16年2月10日に洲本市長と緑町長の確認された文書と、あと同じく洲本市長と緑町長と五色町長、その書類あるんですけど、それには押印されておらないという2種類あったもので、それでちょうどこの16年、17年というのは洲本市と五色町が少し話がうまくいかなかった時期もあったと伺っております。それで、私どもも洲本市とこの合併協議終わった後に、こういう書類があったので話し合われとったのは確かですということは向こうにも認めてもらっておりますので、まず、統合後につきましてはそういうごみの搬入量も考慮した形で分担割合を、負担割合を決めていきたいと、このように双方考えております。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 それで、26年から統合というふうに決まっておると思うんですけども、その規約そのものの全面的な見直しか、または新たな規約の考えはございますか。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） この規約につきましては、まずはこのたび統合の工事に係るものだけをこのたび改正するものでありまして、今後統合に向けては、改正というような形よりもう一度、一から作り上げるというような形で進めていきたいと考えております。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 今回のその管理者にしても、事務局にしても洲本市と緑町の約1対9の割の中での規約であるというふうに解釈しておるわけで、今後やっぱり洲本市とその辺、きっちりと26年の統合運用開始までに話を詰めていただきたいというふうに思っておりますけれども、最後によろしく答弁お願いします。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） この件につきましては、今環境影響調査も開始しておりますので、早急に規約改正に向けての協議に入るとこのような段階に入っておりますので、御報告いたします。

○小島 一委員 終わります。

○川上 命委員長 ほかに。久米委員。

○久米啓右副委員長 今後見直すということですが、質疑の中で搬入量割合という話も出てましたよね。今、さんさんテレビで高木課長が出てきて、プラの仕分けとかいろいろして搬入ごみを減らせと言うてますやんね。人口割がそのまま経費というのが当てはまらないかと、市民の努力しろというものがあると思うんでね。その辺どない考えですか。その辺の考え。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） ただいまのお話ですけれども、まず私はそのリサイクルを進める前に、燃やすごみを少なくしようというようなことで、23年度皆さんにPRしてきました。それで搬入量なんですけれども、平成22年度前年度なんですけれども、可燃ごみ燃やしているごみが5%、おおむね5%削減されたというようなことで、大きな成果があったわけなんですけれども、これは洲本市と南あわじ市比べたら南あわじ市のほうが随分減ってるということなんですけど。それと23年度におきましては、悲しいかな災害がございましたので、災害ごみの増加というようなことで、22年度と23年度の可燃ごみの搬入量はそんなに変わっておりません。

それと引き続き申し上げますけれども、南あわじ市全体と洲本市の全体の搬入量につき

ましては、もうわかりやすく言いますと、全体で3万トンでございます。その内の南あわじ市が1万4,000トン弱、洲本市が1万6,000トン強でございます。そしてその割合がおおむね南あわじ市46%、洲本市全体54%の割合となっております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 この条例は基幹整備にかんする変更なんで、今、言ったことは全体的な考え方なんで、今後、搬入量の件あるいは均等割等での考え方も検討していただきたいと思います。

終わります。

○川上 命委員長 ほかに。

質疑がございませんので、質疑を終結します。

これより委員間討議を行います。

ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○川上 命委員長 意見がございませんので、討議を終結します。

これより採決を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、これより採決を行います。

議案第40号、洲本市・南あわじ市衛生事務組合規約の変更についてを原案のとおり可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙 手 多 数)

○川上 命委員長 挙手多数であります。

よって議案第40号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、当委員会に付託されました案件の審査は終了しました。

お諮りいたします。

3月23日の本会議における委員長報告について、どのようにしたらいいでしょうか。

(「委員長・副委員長に一任」の声あり)

○川上 命委員長 それではそのようにさせていただきます。

2. 閉会中の所管事務調査の申し出について

○川上 命委員長 次に、閉会中の所管事務調査の申し出についてを議題とします。

お手元に配付の閉会中調査事件申し出一覧表のとおり、議長に申し出てよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長 異議がございませんので、議長に申し出ることにします。

3. その他

○川上 命委員長 次に、その他に入ります。その他何か執行部のほうでありましたら先にひとつ。

学校教育課長。

○学校教育課長(安田保富) 1点、御報告を申し上げます。教育施設再編の関係でございませう。教育施設再編に向けての平成24年度の幼稚園の取り組みについて、1点だけ御報告をいたします。昨年11月に来年度の幼稚園の入園の募集を行いましたところ、阿那賀幼稚園におきましては、3歳児、4歳児、5歳児とも各1名というような結果でございました。幼稚園教育におきましても、やっぱり集団活動というものを保障しなければいけないという観点から、このことを重く受けとめまして、何らかの対策をとらなければいけないということで、結果的には、阿那賀幼稚園と伊加利幼稚園の交流を進めていこうということで、1月から、阿那賀幼稚園の保護者の方また、地区の方等の意見交換等も行いまして、平成24年度は、阿那賀幼稚園と伊加利幼稚園を存続したまま、日常的に交流を進めるということにしました。交流の場所は常時、伊加利幼稚園として活動内容によっては、阿那賀幼稚園も活用するというようなことでございます。

それから、また新たな取り組みといたしまして、希望者にはその伊加利幼稚園におきまして、早朝の預かり保育、または午後特別保育の延長、それから夏季休業中の預かり保育を試行的に実施するというようなことを考えております。

あと、職員でございますが、園長のほうは両幼稚園を兼務ということにいたしまして、あとの職員数につきましては、現状と同じように各園2名ずつを確保して、園長が1名、

阿那賀幼稚園の職員が2名、伊加利幼稚園の職員が2名、計5名という体制でこれによりまして、早朝の預かり保育であるとか、午後の特別保育の延長に対応していきたいというふうに考えております。これは試行として実施いたしますので、保護者への新たな保育料等の負担はございません。

以上でございます。

○川上 命委員長 今の執行部の説明に対して、御意見がありましたら。

○久米啓右副委員長 委員長。

○川上 命委員長 うわさにはちょっと耳に挟んでたんですが、きょう正式に学校教育課長のほうからそういった報告がありました。しかしながら、交流ということは、これは期限つきかそれともどのような将来展望の中で、こういった事業を始めたのかお尋ねします。

○久米啓右副委員長 学校教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 幼稚園の再編につきましては、平成25年度から当初の計画では伊加利、阿那賀、丸山の3園統合ということで計画を出させていただきました。当然それにつきましては、また25年度からの統合ということで、まだ今協議中でございます。また津井も含めた4園というような御意見もありますので、将来的にはそういうことも展望しておりますので、それも含めて検討中で、この今申し上げました計画につきましては、来年度の暫定的な取り組みということで考えております。

○久米啓右副委員長 川上委員長。

○川上 命委員長 暫定的に1年やるということで、非常に夏季も延長保育、幼稚園ですか、そういったことをやるということが非常に皆、期待しとるし、その1年間の結果非常に好評であった場合はどのようにするんですか。

○久米啓右副委員長 学校教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 当然統合後につきましても、今暫定的にやろうとしているような取り組みを継続できればというふうに考えております。

○久米啓右副委員長 川上委員長。

○川上 命委員長 新聞で幼稚園教育というものは、どうしてもないようにされては困るといような意見が全国的にもかなりあるらしいですけど、その保育園と幼稚園教育というのは私たちは専門家でないからわかりませんが、どのような違いがあつて、幼稚園教育を残せといのか、そのことについてお尋ねします。

○久米啓右副委員長 学校教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 違いということにつきましては、私は幼稚園のことを申し上げますと、当然幼稚園のほうは幼稚園指導要領というのがございます。それに基づいて教育をします。通常は小学校でも5時間目までとかいうことでございますので、幼稚園教育は、教育としましては、ほぼ午前中が中心でございます。そういう中で就学前の教育をしていくというのが幼稚園教育で、保育所のほうは余り私よくしらないんですが、保育指針というのがあつて、先ほどから出ておりますが、保育に欠けること、福祉的な考え方であるのが、保育園、保育所であるというように考えております。

○久米啓右副委員長 川上委員長。

○川上 命委員長 辰中校区の議員の一人として要望しますが、辰美中学校が御原中学校に25年、合併ということであの中学校があいてくるということで、跡地利用についても一般質問でもさせていただいたんですが、そういった関係上の中で、幼稚園教育、幼保一元化そういったことを根本的にひとついろいろ試験段階の中から、ひとついい方法を見つけて南あわじ市の幼保一元化、お母さん方が安心して働けるようなシステムをつくっていただきたいと要望してやめます。

○久米啓右副委員長 よろしいか。終わります。

○川上 命委員長 ほかにございませんか。
それではこれで、議長ないですか。暫時休憩します。

(休憩 午後 1時45分)

(再開 午後 1時48分)

○川上 命委員長 再開いたしまして、先ほどの請願書の意見書について、協議をしたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

これ今、お手元に配付されている意見書については、ちょっと事務局のほうから説明してください。

○事務局（阿閉裕美） 先ほど配付しました意見書案ですが、これは先に資料として配付しました提出者のほうからこういうふうな意見書ということで出されてましたものを、正式な意見書の様式に写したもので、内容は提出された意見書案そのままになっております。

○川上 命委員長 読んでみましょか。一応読みましょか。よろしいか。
どうですか。小島委員。

○小島 一委員 これ余りにも丸写し過ぎて、3行目の後ろのほうの「私たちはかねてからこれを年金額改定のしようとするに反対してきたが、今回もまた」と書いてあるやんな。これは年金組合の方の文言であって、議会としてこの文章入れるのはどないで。

それと全体にこの文の調子が、かなりきついわの。議会としてこの文章の、最後なんかでも年金引き下げを撤回すべきであるとか、断じて容認できないとかというふうな言葉遣いが、これ議会の意見書としてどないで議長、これでええか。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 今、小島委員がおっしゃったように、私も全く同感でございまして、この文言そのものは、やはり一つの例えば団体が、抗議するような抗議文だと思うんですよ。けさの私たちの審議の内容からしても、やはり政府案のやっぱり財政問題、継続審議どうかというような慎重な意見もそれはあったとようなことも踏まえたら、これは明らかにちょっと主張が強過ぎるというか、そこまで我々議会としたら、もう少し幅広い観点から意見書というのを考えるべきじゃないかなと私は思うんですけども。

その3行目からの、これも我々はここまですることに反対してきたがと、この年金問題議論するの今日初めてやからな。こういうのは事実反してることであるし、断じて容認できないとか、いろいろそれぞれ委員個々に思いもありましたし、それはもうかなりバラエティに富んでたように私は思いますので、この辺のあれはちょっとやっぱりその議会の意見書としては適さないんじゃないかなと思います。もうちょっと内容を修正していただきたい。

○川上 命委員長 委員長がこんなこと言うたらちょっと何になるかと思いますが、この私たちはというのはこれは変えないと。これは我々はまだそこまでは言ってない。後の分については、これはそれぞれ意見があると思うんですけど。どうですか。

蓮池委員。

○蓮池洋美委員 この前の部分だけは取り消すと。あとはこれでええと思います。私は。

○川上 命委員長 この「私たちは」もやっぱり変えて。

○蓮池洋美委員 今回初めてやから。

○小島 一委員 あとは委員長と議長でよう相談して任せて。

○川上 命委員長 この「私たち」だけは取り除く。
それでは、そういうことで。

○久米啓右副委員長 そうしてください。

○川上 命委員長 そういうことでお任せいただいて、再度、本会議のときよったときぐらいで皆に見てもらおうか。

それでは、議長と委員長、副委員長で3人で、ひとつ。事務局よろしくお願いします。

それでは、閉会を。

○久米啓右副委員長 文教厚生常任委員会を終了いたします。御苦労さまでした。

(閉会 午後 1時55分)

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成24年 3月19日

南あわじ市議会文教厚生常任委員会

委員長 川 上 命